

TAMA データを用いた共同研究に関する了解事項

文責 神田展行/TAMA

平成 11 年 11 月 28 日

本文は 1999/10/21,11/11 の TAMA 運営委員会における、TAMA データを用いた共同研究に関する了解事項を明文化する。本文は以下の 1,2,3 項からなる。

1. 本文では、TAMA グループメンバーとは別に、TAMA データを用いた研究を許可する外部の者を共同研究者として位置づけ、その共同研究におけるデータ取り扱いの指針を規定する。
2. 本文で取り扱いを記述する TAMA データとは、
 - TAMA300 干渉計の出力データを処理して得られた計量の時系列信号 $h(t)$ またはその複素フーリエ変換 $h(f)$
 - 低速データ取得系によって得られた真空、温度履歴などの環境データである。
3. TAMA グループメンバー以外の者が TAMA のデータを用いて解析等の物理研究を行いたい場合、次に記す (1) (2) の手続きを行い、共同研究者として限定された範囲で、TAMA データを使用することが可能である。また共同研究の実施は後述の (3) (4) にしたがう。
 - (1) 共同研究を希望する者は、TAMA 運営委員会に研究プロポーザルを提出することができる。TAMA 運営委員会はこれを審査し、その内容が妥当であると認めた場合、次の (2) に示す手続きをおこなう。妥当であると認められない場合はこれを拒否できる。
 - (2) プロポーザルを受け入れた場合、TAMA 運営委員会は担当者をきめて、利用希望者との間で研究に関する取り決めを文書 (MOU) 化する。MOU は TAMA の代表者と共同研究者が属する機関 (organization) の長との間で取り交わされる。MOU が TAMA と利用希望者の双方で了解された時点で共同研究を開始する。
 - (3) 本項による共同研究では、データの解析やそれに準ずる取扱いは、MOU に記した内容に限定される。
 - (4) 本項による研究の成果の学術的会合等における発表、論文投稿やあらゆる公表は、共同研究者と TAMA の両者の名前で行う。内容や公表の是非は双方によって検討され、双方の了解を必要とする。

本文終わり